

みかい

安住院便り
(第3号)

平成11年8月1日発行

〒703-8236

岡山市国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

回向(めぐりむかう)

皆さま、法事の時、御看経(おかんき)をお唱えしますが、その最後に回向の文があります。住職の説明を聞かれた方は、覚えておられるかも知れません。

「願わくはこの功德をもつて あまねく一切に及ぼし 我らと衆生と皆ともに 仏道を成ぜん」

この功德というのは、ご法事を営んだり仏さまの供養をする功德ですが、今は御看経を読むという功德です。あなたが行った功德が、全てのものに及んで、功德を行ったあなただけでなく、この世の全てのもの、衆生というのは生きてるもの全てですが、人間だけではなく、動物や虫を始め草や木など、あなたや周囲のすべてのものが生きています。それらが全て一緒に仏の道を歩めるように、と願うのです。

回向とは、自分の行った功德が巡り巡って、亡くなったご先祖様に向かうだけでなく、仏さまに向かうだけでもなく、衆生全てすなわち生きているもの全てに向かうことなのです。少し前のことですが、自分を仏だの神だのと称する者の宗教のような集団が、自分達がいかに成るためには、他人はどうなってもよいとの考えなのか、多くの人を殺害した事件がありました。

日本に広まった仏教は、決して自分だけが仏になるという教えではありません。

みんな仲良く一緒に仏の道を歩むのです。この世の中、あなた一人だけでは生きてはいけません。他の人の手助けが必ず必要です。また、食料という形で動物や植物の命をもらって、初めて生きて暮らせるのです。ですから、食事の前に手を合わせ、「いただきます」と言うのです。神さまや仏さまにお祈りしているのではありません。これから食べる様々な物に対して、その生命を頂くのですから、「頂きます」なのです。



そう思うと決して食べ物を粗末にないはずで

仏さまの教えがお経なのですが、そのお経には決して難しいことが書かれている訳ではありません。みんなが、仏さまの下で仲良く暮らせるように願う心が大切なのです。そのためにもどうするか、仏さまの教えなのです。めぐりめぐって、あなたの善い行いが、様々なものに向かうよう、その思いをもって今日一日を始めて下さい。

安住院ホームページ <http://www.icity.or.jp/anjuin/>

禅光寺安住院とは

皆様の菩提寺である当院の正式名称は、「禅光寺安住院」と言います。

江戸時代までの瓶井の谷には禅光寺というお寺として、本坊の安住院の下、十数ヶ寺の塔頭寺院がありました。お寺を中心に瓶井門前村として栄え、「瓶井寺」とも呼ばれていました。しかし、明治維新の寺領没収・廃仏毀釈の影響で、規模が小さくなり、現在は安住院と普門院のみが残っているわけです。

お寺を創建された報恩大師が平井の浜で海上に怪しく光る霊木をみつけれ、それを彫刻して御本尊の千手観音を造られたのです。その時、その素晴らしい御本尊を前にして、

「光明を修禅し無明を滅し淨菩提心を安住す」（修禅光明滅無明安住淨菩提心）と、言われたのが寺名の由来です。

決して長野の善光寺と一緒にしては困ります。あちらの善光寺は、人のお名前ですから。

また、禅宗のお寺でもありません。日本で禅宗が盛んになったのは鎌倉時代であり、報恩大師が活躍されたのは、天平勝宝年間（奈良時代末）です。当寺の方が先です。禅という文字は、心を静かにし無私の境地に達する、という意味です。

即ち、御本尊千手観音さまの有り難いお力で、心を穏やかにして、迷いを除き、悟りの境地に安らかに住することが出来るよう、との願いで建てられたお寺なのです。皆さま是非そのような気持ちで、本堂にて合掌して下さい。よう願っております。



四国八十八ヶ所霊場巡り

今年の四月五日・六日

檀信徒の皆様と、四国八十八ヶ所霊場巡拝の第三回目を行いました。

高知県の第二十八番（大日寺）から第三十七番（青龍寺）まで高知市内のお寺を中心に巡りました。

暑くなく寒くなく絶好のお参り日和で、桜は散り始めてはいましたが、綺麗なお姿になった龍馬像を見て桂浜を散策のんびりとしたお参りでした。

この前までは、瀬戸大橋も高速道もなく、高知まで一日がかりでしたが、今や三時間ほどで本堂に驚いてしまいます。巡拝ですので、少し慌ただしいお参りで申し訳ありません。

気に入ったお寺があれば、また次の機会に、そっだけ参拝に行くのも十分可能でしょう。自家用車などで行ってもよいかもしれません。立派なお寺も多いので是非考えて見て下さい。順番に回っていると、どんなお寺か忘れてしまいが

ちですから。

次回は十月十三日（水）・十四日（木）ですので、皆様宜しくお願い致します。

